

陽の里

発行 平成29年7月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.132

テーマ みんなが繋がるまち池田



▶ 温咲(おんさい)カフェの様子

池田町における地域包括ケア、 地域支援事業の在り方について



池田町長

岡崎 和夫

団塊の世代が2025年には75歳を迎えるなど少子高齢化が進行する中、当町においても例外ではなく、後期高齢者が急増するとともに、一人暮らし高齢者や夫婦のみの高齢世帯、認知症である高齢者が増加することが予測されます。

こうした中で、介護保険制度の持続性を維持しながら、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことを可能とするために、介護サービスに加え、医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムを地域に応じて構築していく必要があります。

そのため、平成27年介護保険法制度の改正により、今後当町の地域支援事業においては、地域包括ケア実現のための方向性を継承しつつ多様な生活支援サービスが提供されるよう、行政が中心となって地域づくりを強化していきます。昨年度配置した生活支援コーディネーター及び協議体と連携をとりながら、生活支援サービスの充実に向けて地域に不足するサービスの創出、ボランティア等の生活支援の担い手の養成、元気な高齢者が担い手として活動する場の確保等の資源開発やそのネットワークの構築を推進します。

また、医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、在宅医療と介護の連携等の取り組みや、気軽に介護についての相談、情報交換ができる場所として認知症カフェの開設など認知症施策にも重点を置いて各事業に取り組みでまいります。

これからも「みんなが繋がるまち池田」を目指し、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めてまいります。

池田町の地域支援事業について

池田町地域包括支援センター

江崎 昭子

地域支援事業とは文字通り「地域」を「支援」する事と言えます。むろん中心はそこに住む「人」です。今改正の肝は「介護予防の充実」と「生活支援」であり、地域包括ケアとは早い話が「地域づくり」だと学びました。地域づくりは、立場を越えた者同士がお互いということ話し合うことから始まります。その途中で悩んだり落ち込んだり：そんなことを繰り返して「私」の問題が「みんな」の課題となり、解決のために必要な何かを生み出すまでの過程ではないでしょうか。その結果、池田町の目指す姿『みんなが繋がる町いけだ』に少し近づいていくのだと最近わかりかけてきました。この目標に定められた想いは壮大です。地域の資源、介護予防事業、温咲カフェを始め商店郵便局等といった新たな圏域と医療介護圏域との重層的な繋がり仕組みを作る池田版地



▲第一層協議体(まるつといけだ会議)グループワークでのプラチナショット

域包括ケアの実現。勿論正気(勝機?)で考えています。これからの時代「力合わせ」が必要だとある教授が仰っていたが、その通りだと思えます。それができる「まち」は、今後どんな制度改正や課題があるうがブレない地域づくりができます。相手を論破し「打ち負かす」のではなく「打ち解ける」話し合いをしよう」と教えを受けました。我々の本気を伝えつつ地域・事業所等みんなで力あわせをしながら「繋がる町いけだ」を目指したいと思えます。

『温咲カフェ』オープン!

サンビレッジ宮路

高橋 美穂

温咲カフェの『おんさい』とは、美濃地方の方言で「いらつしやい」の意味で、カフェに来て頂いた皆様の心が温かくなり、笑顔の花が咲いて欲しいという思いで名づけました。

温咲カフェは池田町の目指す「みんなが繋がる町いけだ」の実現に向けた取り組みで、美味しいコーヒーはもちろんの事、「リハビリ体操」や「介護食のつくりかた」時には「オレオレ詐欺には騙されない」と、毎回話題を変え、日ごろ気になる事を皆様と一緒に語らえる活動の場所にして行きたいと思っています。

地域で暮らす高齢者の皆様、支えているご家族、将来に不安を感じている方々が、その不安や悩みを一人で抱え込むことなく、住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすことが出来る社会の実現に向けて、少しでもお役に立てる様に取り組んで参ります。

介護、医療のスタッフも温咲カフェにおられますので、お気軽にご相談くださいませ。

また、一緒にカフェを手伝って頂けるボランティアの方を募集しています。興味のある方は、各カフェへご連絡ください。

左記のご案内の「カフェ」で皆様のお越しを心からお待ちしております。お誘い合わせてお越し下さい。

温咲 おんさい

カフェ

OPEN

- サンビレッジ新生苑 いこい 9:00~12:00 水曜日(月4~2回) ☎0585-45-5545
- サンビレッジ宮路 ちゃほほ 10:00~11:30 木・日曜日(月2回) ☎0585-45-0760
- もやいの家市橋 もやい 10:00~11:30 水曜日(月2回) ☎0584-72-2720

※開催日はお問い合わせください

「しんせい語録」の読み解き

育成は「任せて見守る」

この大切さ

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

作業療法学科教員 廣瀬 武

毎日の教育現場で、この言葉の意味をひしひしと感じています。育成や教育というと、ついついしてしまいがちなが過干渉になってしまいうこと。「ああなつてほしい。こうなつてほしい。」とたくさん思いがありますが、それを前面に出すだけでは、ただの押し付けになつてしまいます。よりよく人を育てるには、きつと「任せて見守り、自分で考える時間を与える」ことが大切になるのだと思います。

そして、この「見守る」という言葉には、教員が学生との距離を適度に保ちながら成長を促すという意味が含まれていると感じます。日本には「間」を大切にしている文化があります。人ではなく「人間」、リビングではなく「居間」、お笑いで大切なものは「間」、人々が生活する世の中のことを「世間」、読めない「間抜け」と言われてしまいます。



▲サンピ祭も学生と一緒に楽しみました。

このように「間」がつく言葉が多くある理由は、先人たちが、本質が物や人にあるのではなく、人と人、人と物の関係性に存在していることを見出したからではないでしょうか。私はこの本質である「間」を、育成の現場で具体的に表現した言葉、それが「任せて見守る」だと考えます。

桜が散り、いよいよ夏に向け季節が移り変わっていきます。学生に考えるチャンスを与え、その成長を教員みんなで見守っていきたいと思います。



しんせい語録

新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。

障がいではなく人を見る

(株)新生メディカル高山営業所

倉坪美智代

Mさんは五〇代で脳梗塞を発症し、右麻痺、失語症のため意思の疎通が困難です。生まれつき知的障がいもあります。ヘルパーは退院と同時に食事のセッティングと見守りで訪問することになりました。

Mさんは口の中に残っている状態で次の食べ物を詰め込まれます。言葉で伝えても理解できないMさんに食事の間には水分を目の前に置いて飲んでもらい、1つの物ばかりを食べられるため、食器のローテーションも当たり前のように行っていました。そんなMさんに関わっていたある日「介護の仕事の道しるべ」のTさんの事例をみる機会がありました。Tさんが思うように1品ずつ完食される姿でした。

Mさんに関わっているチームの仲間はずと疑問を持ちました。もしかして食器のローテーションはMさんの思いではないのかも。

次の日より、危険の無いように見守りながらMさんの思いのままに食事をとっていただきました。側にいたお母さんより「この子は昔から1品ずつ食べる習慣だった」とお聞きしました。障がい者としてできないことを見ていて、「Mさんという人」を見ていなかった事を反省しました。

Mさんは必死に思いを伝えようとされます。理解はなかなか出来ませんが行動から見えることもあります。手を出し過ぎず危険の無い範囲で「Mさん」を見てこれからも関わっていきたいと思います。



▲お互いに思いを伝えようと懸命に取り組んでいます

vol.17
「サンゴジュミジの仲間たち」

もやいの家瑞穂 チーフ 砂川 淳一

私が社会福祉法人新生会に入社して早13年が経過しようとしています。今までに沢山のご利用者、ご家族、スタッフの仲間、その他関係施設の皆さまから多くの事を学びました。もちろん、今も毎日が学びの連続です。この仕事の醍醐味は、多くの人と繋がりをもち、共に悩み、共に楽しむことを通じて、自分自身が人として大きく成長できる事だと感じております。

新生会には「もやい」という名前が付いた施設が何か所かあります。「もやい」という言葉は「分け合う・助け合う・繋がり」という意味を持つ方言です。個人が持つ力はちっぽけなものです。でも、人と人が繋がりがあ、助け合うことが出来れば、その力は何倍もの力となり、どんな困難にも立ち向かうことが出来ます。私が今、勤務しているもやいの家瑞穂の運営推進委員会には、地域住民の代表者・行政・ご家族・障がい者施設、児童養護施設のスタッフ等が参加されております。

事業所だけでは解決出来ない事、地域だけでは解決できない事、家族だけでは解決できない事…。悩みを一人が抱え込むのではなく、「もやい」の力で地域と事業所、仕事の仲間同士が助け合い支え合って暮らしていけるよう、これからも自分たちの役割をしっかりと果たせるよう努めて参りたいと思います。



▶近隣中学校の職場体験の様子

トピックス

第41回チューリップ祭



新生会の創立を記念し、地域の皆さんやボランティアの皆さんへ感謝を込め、この時期に満開を迎える中庭のチューリップにちなんで毎年行っております。今年は、落雷、雨と波乱の幕開けでしたが、日頃のチームワークとボランティアの皆さんのご協力が無事終えることができました。イベントも、ききょう太鼓の皆さんが迫力満点の演奏から始まり、二胡演奏、大道芸、池田中学校吹奏楽部演奏など来場者の皆さんが『素敵な音色に癒された』と感激されていました。また、地域の食材を使った模擬店も大盛況で、ご利用者やご家族の方々も『美味しい』と大変喜ばれていました。今後も地域の方々と共に皆さん楽しんで頂けるよう努力して参りたいと思います。

第11回中川さくら祭



4月1日(土)「第11回中川さくら祭」が行われました。例年になく、桜の開花も遅れ、桜の見頃は、後の楽しみとなりましたが、多くの方々に足を運んで頂き、活気あふれる祭となりました。この中川さくら祭が地域の祭として定着して参りましたのも祭を盛り上げようと共に企画・運営から携わって下さっているアトラクション、ブースの皆様、地域の小学生～大学生ボランティアの皆様、福祉サービス事業所の皆様、ご家族の皆様など、多くの方々のご協力あってのものとし心より感謝致しております。今年は、マグロの解体ショー等アトラクション、ブース共に趣向を凝らし大変賑わっておりました。この祭を通して、地域の輪が広がり、暮らしやすい、優しい社会創りに繋がればと願っております。本当にありがとうございました。